

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説2000日
県政の革命見!

県議会だより

後藤かつみ

vol.31

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
http://www.ccrgoto.com/

リベラル群馬の新メンバー



黒沢孝行
(太田・6期)



後藤克己
(高崎・3期)



角倉邦良
(高崎・3期)



あべともよ
(太田・3期)



小川晶
(前橋・2期)



本郷高明
(前橋・1期)



井田泰彦
(桐生・1期)



加賀谷富士子
(伊勢崎・1期)

民主系群馬県連は、女性候補の擁立・支援に全力を挙げてきましたが、今県議選で当選した女性議員3名全員がリベラル群馬所属となっています。
また、会派8名中、40代3名、30代3名という極めて若い年齢構成であり、まさに「女性」「若さ」が際立つ会派としてリベラル群馬も再出発しました。

女性議員全員
リベラル群馬所属!

依然として「長老政治」「男社会」の体質が色濃く残る群馬県議会ですが、リベラル群馬の使命は「若者の目線から旧弊を打破し改革の先頭に立つこと。そして、「女性」の目線から弱者・生活者に寄り添う政策提言をすることにあります。
後藤も、会派の幹事長として若手議員を牽引し、リベラル群馬らしい「新しい県議会」を作っていく所存です。

会派の先頭に立ち、
改革を推進!



当選後、翌朝より初心に立ち返り街頭演説を継続。
通勤者からの激励に応える後藤かつみ（並榎町交差点付近にて）。



岡田克也・民主党代表も緊急来県
(遊説途中で大泉町の共生社会の取り組みを視察)



仲間と共に、県内各地で訴える

後藤は、会派を代表し、「代表者会議」「議会運営委員会」のメンバーとなり、議会運営全般を取り仕切る責任を負うことになりました。
また、「議会基本条例推進委員会」のメンバーとして、後藤が最重要課題としてきた議会改革の推進役となりました。
3期目となり、議会における責任はますます重くなりましたが、信条はブレません。県政の「タブー」に対しては一層鋭く切り込む姿勢で臨んでまいります。

議会での責任は増しても、信条は不変

トピックス

一億総「正常性バイアス」状態から脱せるか

「平和安全法案」の危険性を訴える

後藤は、現在の安保法制の議論を非常に危惧し、仲間とともに県内各地で街頭アピール等の活動を行っています。

数多くの問題点が指摘される中、後藤が訴えたい論点を整理してみると、

- 一言で表現すれば、「他国の戦争に参加するかどうか」が問われている法案であるということ。
- 進んで戦争に参加する国になることで、相手国やテロ組織などに日本攻撃の大義名分を与え、国民を危険にさらすことになる（阪田雅裕元内閣法制局長官などが指摘）。
- 民主党は、盛んに言われる「アジア安全保障環境の変化」に対しては個別自衛権で対応可能という対案を示している。
- 安倍総理が殊更に「平和」「安全」を強調すればするほど、実は「危険」なことを進めようとしていることに気付くべき。憲法学者や内閣法制局長官経験者が揃って「違憲」と指摘していることが、危険性の本質を物語っている。

後藤が危惧するのは、これだけ多くの識者や政府高官経験者が警鐘を鳴らしているにもかかわらず、依然として「騒いでいるほど危ないことはやらないだろう」という漠然とした安心感が国民の間で蔓延していることです。これは、火災事故時に警報が鳴っているにもかかわらず、「何かの間違いだらう」と思い込み、逃げ遅れてしまう群衆心理「正常性バイアス」が働いているのではないかとさえ思います。後戻りできない状況になって「こんなはずではなかった」と思った時には遅いのだということを粘り強く訴えて参ります。

女性・若さ際立つ！リベラル群馬再始動